

# Report チャレンジ企業

AI・IoTを活用し、業務の効率化に取り組む  
企業にお話を聞きました。

## Report 1 | 丸井織物 (中能登町)

### 織機1000台をIoT化。省力化で生まれた社員の力を創意工夫に

品質はいいものの、どうしてもコストが割高になってしまう——。厳しい国際競争に直面する多くの国内メーカーが抱えるこの課題を解決するための糸口として、国内最大手の織物メーカーである丸井織物では積極的なIoT化に挑戦しています。その一環として、2015年から工場のIoT化を推し進め、約1000台の織機全てにセンサーを取り付けました。センサーを通して機械の稼働状況、糸の張力など、さまざまな情報を自動的に収集した同社独自のビッグデータ(\*)を構築。これらの膨大な情報をもとに生産状況をリアルタイムに把握し、不良品が出た時の状況を分析することで、次回に不良品が出ないようにするなどの改善活動へとつなげています。

「異常が出る前に対応することで省力化につながり、生産コストは10%以上抑えられました」と宮本米藏常務は胸を張り、国際競争力も大幅に高まったと言います。さらに、省力化で生まれた社員の余力を、業務改善や新たな事業展開など、機械ではできない“創意工夫”に生かせるようになったのも大きなメリットの一つです。

同社では今後、AIなどの活用も進め、人手で行っている生産計画の修正の完全自動化などに取り組んでいく計画で、最新技術を積極的に生かしたもののづくりに知恵を絞っています。

\*一般的な情報処理技術では扱うのが困難なほど大量で複雑なデータ



IoTで1000台もの織機の管理を省力化



工場の効率化を推し進める同社の宮本常務

## Report 2 | ここゆい 心結 (金沢市)

### 予約システムにAIを導入。来店者数予測への活用も計画中

金沢を訪れた観光客や結婚式・成人式に臨む県民向けに、レンタル・着付け・撮影を行う心結。同社では、2017年にAIを搭載した予約管理システムを導入しました。システムでは、24時間予約を受け付け、申し込みがあればAIが瞬時に着付けやヘアセットの担当者を割り振りし、利用者に予約確定メールを自動的に返信します。以前は、これらの作業をスタッフが行っていたため、夜間に予約があると、どうしても返信が翌朝以降にずれ込んでいましたが、「即時予約ができ、サービスの向上につながりました」と越田晴香社長は話します。

大幅な省力化にもつながっており、年間1万人の方が利用する同

社では、予約の確認や調整などの業務にスタッフ3人が半日ばかりで当たっていましたが、今では30分程度で済むようになったそうです。

さらに、同社では、これらの予約システムを通して収集したデータに、来店実績や観光イベント、天気などの情報を加え、AIが分析することで来店者数を予測する新システムを開発中。「省力化で生まれた時間をお客様が笑顔になれる商品や旅行プランの提案に生かしたい」(越田社長)とのことで、AI導入を機に、新事業創出に向けた動きも活発化しています。



国内外から多くの観光客が来店



越田社長を中心に新たな旅行プランの提案に積極的